

小学校国語科における読書指導の一方方法——リンカーンの伝記を中心に——

One Way of Japanese Language Reading Guidance for Elementary School in Japan — Focusing on the Biography of Abraham Lincoln —

馬場 治

Hajimu BABA

〈要旨〉

平成25年5月、文部科学省が「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第15号)第8条第3項において準用する同条第2項の規定に基づき国会に報告した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、はじめに「子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要である。」と謳われている。この提言を小学校国語科における読書指導において具現化させるための対象として著名な偉人であるリンカーンの伝記を選び、低中高学年の発達段階に応じた適切な伝記教材を用いた方法による指導の道筋について考察する。

〈キーワード〉

読書指導 発達段階 紙芝居 学習漫画 総ルビ付き伝記

一 読書指導の方針と目標

〈要旨〉に示した「計画」に先立つ『小学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省著作・東洋館出版社発行、平成20年8月)によって「読書指導」に関する記述を拾い出してみると(傍線と波線は筆者)、中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針に「読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置付ける。教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く読まれている古典や近代以降の作品などを、子どもたちの発達の段階に応じて取り上げるようにする。」と示され、これを受けて改善の具体的事項が「ク読書の指導については、目標をもって読書し、日常的に読書に親しむようにすることや図書館の利

用の仕方などを内容に位置付ける。」と示されている。また、国語科改訂の要点の(6)読書活動の充実では「読書の指導については、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善を図っている。また、日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し、必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することも重視している。」と示されている。また、第2章 国語科の目標及び内容 第1節 国語科の目標 1教科の目標の解説には「言語感覚を養うことは、一人一人の児童の言語生活や言語活動を充実させ、ものの見方や考え方を個性的にすることに役立つ。こうした言語感覚の育成には、多様な場面や状況における学習の積み重ねや、継続的な読書の時間が必要であり、そのために、国語科の学習を他教科等の学習や学校教育全体に関連させていく工夫も大切である。」と示され、2学年の目標の(3)「読むこと」に関する

る目標は、「読む能力と読書態度に関する目標とを示している。」としており、各学年における各領域の目標は「C読むこと」(3)で次のように示されている。「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」(第1学年及び第2学年)、「目的に応じ、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」(第3学年及び第4学年)「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」(第5学年及び第6学年)。以上の方針や目標では、読書の前提としての「時間(習慣)・環境(施設)・選書(蔵書)」、指導によって自覚的に身に付けるべき「目的や発達に応じた能力と態度」といった要件が通底している。小稿は主に後者について実践的な具体例を挙げつつ考察することを目的としている。

言葉を持つ人間の知的な営為としての「読書」について国家や社会の次元で危機意識が高まっているのは、【衆議院本会議】「国民読書年に関する決議」(平成20年6月6日)において「文字・活字は、人類が生み出した文明の根源をなす崇高な資産であり、これを受け継ぎ、発展させて心豊かな国民生活と活力あふれる社会の実現に資することは、われわれの重要な責務である。しかしながら、我が国においては近年、年齢や性別、職業等を越えて活字離れ、読書離れが進み、読解力や言語力の衰退が我が国の精神文明の変質と社会の劣化を誘引する大きな要因の一つとなしつつあることは否定できない。我が国の国会はこうした危機意識から、平成十一年(西暦一九九九年)に『子ども読書年に関する決議』を衆参両院で採択、平成十三年(西暦二〇〇一年)には『子どもの読書活動の推進に関する法律』を制定、さらに平成十七年(西暦二〇〇五年)には『文字・活字文化振興法』を制定し、具体的な施策の展開を政府とともに進めてきた。学校における『朝の読書運動』の急速な浸透、読書の街づくりの広がり、様々な読書グループの活性化など、国民の間の『読み・書き』運動の復活、振興などはその効果の顕著な例である。こうした気運の一層の発展をめざし、われわれは『文字・活字文化振興法』の制定から五年目の平成二十二年(西暦二〇一〇年)を新たに『国民読書年』と定め、政官民協力のもと、国をあげてあらゆる努力を重ねることをここに宣言する。」(傍線は筆者)と謳

われていることによっても明らかである。「書物あつて読者なし」の状況では困る。

二 読書教育の必要性

「国民の読書推進に関する協力者会議」報告書「人の、地域の、日本の未来を育てる読書環境の実現のために」(平成23年9月)の「第1章 なぜ今読書が必要なのか」は冒頭、問いに対する答えとして次の三点を挙げている(傍線は筆者)。

◇ 読書は、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力などをはぐくみ、個人が自立して、かつ、他者との関わりを築きながら豊かな人生を生きる基盤を形成するもの。

◇ 同時に、今後の社会の最大の資源である「知」へのアクセスや新たな「知」の創造の鍵となる、社会において不可欠な文化的インフラ。

◇ 東日本大震災を経験した我が国が、危機的な状況から立ち上がり、もう一度未来を創造する力を養うため、一人一人に、また、社会全体にこそ読書が必要。

戦後、経済の高度成長時代を経て「平和で豊かな日本」の就学率と識字率は飛躍的に伸びた。しかし、衣食住などの物質的な生活は不自由しなくなった反面、読書などの精神的な生活は必ずしも豊かではなくなると憂慮する向きも多い。その主な要因は、様々な情報が様々な媒体で氾濫する社会における価値観の多様化、職業人の多忙化だと考えられる。それは、子どもが落ち着いて読書する文化的な時間の余裕をも奪った。これが恒常化して「活字離れ」「読書嫌い」は社会現象となった。

そんな折、東日本大震災が読書の必要性を再認識させてくれた。それは、公共図書館や学校図書館、書店も大きな被害を受け、避難所の子どもたちは一冊の本を回し読みし、「もっと自由に本を読みたい」と渴望した旨の報道があったからである。

瓦礫が撤去された被災地では「読み聞かせボランティア」も募集された。いづれにしても「本を読む」という営みはたとえ逆境にあつても、「知りたい」「学びたい」という知的欲求を満たす最初の一步であり、その中で見出した心に響く言葉によって励まされ、現在の危機から這い上がり未来へと羽ばたく「生きる力」に繋がる。

さて、初等教育において「読み書き計算」は学力の基礎である。特に読み書きの力を身に付ける基本的かつ普遍的な方法として読書は重要である。識字教育の観点からも、文字に書かれた言語の一字一字を正しく発音して理解でき、その文字を言

語に合せて正しく筆記（入力）する能力は、現代の知識基盤社会における生活の様々な場面で基本的に必要であり、高度な専門職に就いて働くためには必須である。

故に小学校から「読書」を国語科の「指導」に限らず全教科に及ぶ「教育」の一環として位置付け、「読書教育」という概念によって実践されるべきと唱える向きもある。例えば、増村王子氏は「読書が一人ひとりの子どもの全面的な成長発達と切り離せない深い関わりをもつ」ことを指摘し、発達段階に沿った系統的な見通しの中で読書の活動を進めながらも、「教育」という用語を用いる理由として次の六点を挙げている⁽¹⁾（傍線と波線は筆者）。

- ① 読書は、他人に強いられたり命令されたりするものではなく、主体的、創造的な精神のいとなみである。まず子どもの心を開放し、自由な雰囲気の中で、のびのびと読書させたい。
- ② 読書とは、ことばや文字という抽象化されたものから、自分で頭の中に具体的な映像を作り出す精神の働きである。その積み重ねによって物事を正確に順序立てて考えるあらゆる学習の基礎がつかかわれる。
- ③ 本に書かれた内容をどう読み取るか、どう感じるかは個々の子どもの自由である。大人がはじめから答えをきめてかかるべきではない。結論も自分で発見すべきで、外から性急におしつけてはならない。
- ④ 読書教育では、能力や成績によって差別されることのない。どの子ども自分に適した本を選んで読書を楽しむことができる。
- ⑤ 読書は、楽しく自由な創造の世界だが、たとえば長編を努力して読みとおすというような訓練的な要素も含まれる。
- ⑥ 読書教育の中で基本的なことは、学校教育の中で時間をきめてきちんと行うべきだが、それだけで終わるものではなく、もっと広い、子どもの自由な読書活動の場である家庭や、他の読書施設などと提携することによって習慣化を計りたい。

右において繰り返し強調されているのは、子どもの「自由」と「自分」である。しかし、まずは大人が本との出会いの場を作り、読書の楽しさを伝える必要がある。それが家庭→学校→地域→社会へと広がり不可欠の文化的インフラを構築し、社会→地域→学校→家庭へと循環することによって国家の知的水準まで高まっていこう。

循環のハブとなるのが各地域に設置された学校である。例えば、小・中・高等学校において読書を習慣付ける目的で始業前に読書の時間を設ける「朝の読書運動」、通称「朝読」が全国的に広がっている。「朝読」とは「毎日やる」「みんなでやる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」を原則とした児童・生徒が読書に取り組み活動である。また、教師や保護者のボランティアによる「読み聞かせ」も増えている。いったい読書の役割には大きく「啓発」「獲得」「娯楽」の三つがあると思われる。読書活動と学力向上には相関があることは、学力状況調査によって実証されている。そこで、読書指導によって子どもが読書好きとなる具体的な一方法を提示してみたい。

三 発達段階に応じた適切な伝記教材とは

三〇 伝記教材について

『小学校学習指導要領解説 国語編』第1章 2 国語科改訂の趣旨では「日常生活に必要な基礎的な国語の能力を身に付けることができるよう、次のような改善を図る。」としてその具体的な内容が示されており、「(ウ)教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・漢文などの古典や、物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品を取り上げるようにする。」の中に「伝記」が挙げられている。また、各学年における「C読むこと」の言語活動例においては、第5学年及び第6学年の事項「ア伝記を読み、自分の生き方について考えること。」と示されており、高学年を対象とした指導で用いるべき教材として位置付けられている。更に解説には、「取り上げられた人物の生き方や人生等を描いた伝記を読み、自分を見つめ直し、自分の生き方について考える言語活動である。伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすることが大切である。伝記には、人物の取り上げ方や書き手によって偉人伝や史伝などがある。いずれも、人物の生き方を描いているので、物語や詩のような行動や会話、心情などを基軸に物語る文学的な描写が用いられることが多い。それと同時に、人物の生き方や考え方、その偉業などを意味付けるといふ点から事実の記述や説明の表現が用いられる。これらは、

『B書くこと』(2)のAで取り上げている『随筆』と表現方法に共通性がある。」とある。

右を踏まえ、小稿では高学年で伝記を扱う以前に低学年で伝記に興味を持ち、中学年で人物が生きた時代・場所・行動「いつ、どこで、どのように」といった基本情報を確認できる教材によって親しむことができるような指導を工夫したい。

発達段階の観点からは通常、絵本から活字へと進むから、読み聞かせ→文字が読める→文章が読める→自分から読む→考えるために読む、という過程を想定し、同一人物について紙芝居→学習漫画→伝記文庫という流れでの読書指導を考える。

教ある人物伝の中で今回リンカーンを選んだのは「世界の中心アメリカ合衆国の歴代大統領で最も有名」「少年時代から本好きで『ワシントン伝』に感銘を受け立志」「フロンティアスピリット(開拓者魂)の体現者」「失業・失恋・落選等どん底からの復活」「奴隷解放を宣言し奴隷制を廃止」「南北戦争による国家分裂の危機を回避」「直面する政治的な課題解決に努めた生き方と悲劇的な死」「後世の人々へ遺された生きる糧となる名言」といった理由による。リンカーン伝に影響を受けた少年は数知れないが、黒人初のオバマ大統領が尊敬し政治の規範としていることはよく知られている。故に児童が、環境・格差・紛争などの世界規模の課題に悩むグローバル時代をどう生きるかについて啓発される教材と言えよう。

次節では、低中高それぞれ特質と『出典』を掲げてから内容について考察していく。

三― 低学年〔絵画主導型の紙芝居(要約と導入)〕

紙芝居・伝記シリーズ 教育画劇 昭和61年6月 桜井信夫 脚色 / 伊藤展安 画

紙芝居は子どもを観客として紙に描かれた絵を見せながら演じ手が向き合って語り進める芝居で、現代の保育現場では絵本と並ぶ日常的な保育教材・教具である。故に低学年の児童には馴染みがある。更に人物の生涯が表紙を含め16画面に要約されており、平均1画面1分で演じられるとして16分で完結するので児童の集中力は途切れまい。演じ手は観客の反応を見ながら、絵の引き抜き方、声色、台詞直しなどを自在に変えることもできる。演じ手の技能が高まると観客との直接交流による双方向性や一体感も高まり盛り上がる。「絵を見ながら語りを聞く」紙芝居は文字を読む前に話を楽しみながら聞き興味を惹く、導入するための格好の教材である。

教育画劇は戦後、印刷紙芝居の草分けである。会社概要では「私たちは紙芝居と児童図書専門出版社です。高度な情報化社会が形成されつつある現在、紙芝居と

言うときめかしく聞こえるかもしれませんが。しかし私たちはむしろこのような時代だからこそ紙芝居の重要性が増してきていることを確信しています。なぜなら人は独りでは決して生きることができません。人とのふれあいやつながりを必要としているからです。そして人とふれあうことが最も必要とされる幼児期に紙芝居は大きな役割を果たすからです。紙芝居を演じることで、話し手と聞き手は時間と物語を共有します。共有した時間と物語の中でお互いを思いやることなど、人が生きていく上で本当に必要なことを学びます。紙芝居には、そのような力が備わった何より優れた情報伝達の手段と私たちは信じています。」と謳っている。筆者も地域の行事や小学校で紙芝居を演じてきた経験を持つが、右の力を実感することが多い。

では逸話を表象する各画面の第一印象を私に要約しながら全体の構成を見てみる。

- 1画面 ケンタッキーの開拓地に建つ丸木小屋前で朝畑仕事に出る両親を見送る。
- 2画面 父親に頼まれた薪割りの手伝いで斧を振るって汗を流し働く少年エープ。
- 3画面 村人から借りて読んでいた『ワシントン伝』を雨に濡らしたがっかりする。
- 4画面 過失を正直に告げ詫びに持ち主の畑で手伝い働きをして褒美に本を貰う。
- 5画面 22歳の若者になったエープはイリノイ州の町で雑貨店の番頭として働く。
- 6画面 郵便局長となったリンカーンは週一回届く新聞を町の人に読み聞かせた。
- 7画面 25歳のリンカーンはイリノイ州の議会選挙に出馬し応援を得て当選した。
- 8画面 法律の勉強をして弁護士となったリンカーンは弱い立場の人々を助けた。
- 9画面 農業中心の南部では人手が要るので人身売買によって黒人を奴隷にした。
- 10画面 奴隷制度の賛成反対を巡る演説でダグラス議員と激しく議論を闘わせる。
- 11画面 大統領選挙に出馬し全国遊説の途次ある少女の勧めで鬚髭を伸ばし当選。
- 12画面 南部が言い分を通そうとして南北戦争が始まり鋼鉄製の軍艦も登場した。
- 13画面 南北戦争の最中リンカーンは奴隷解放を宣言し黒人は両手を挙げ喜んだ。
- 14画面 激戦地ゲティスバーグを訪れたリンカーンは戦死者の墓地で名演説した。
- 15画面 芝居見物に夫人と出かけた劇場の桟敷席で観客から盛んな拍手を受けた。
- 16画面 悪人の凶弾に倒れたリンカーンは劇場から運び出されたが翌朝死亡した。

右の画面で描かれていない事柄は語りの文で補われているが、むしろ大胆な省略

によって生涯の骨組みが露わになっている。政治や歴史に関する低学年には難しい言葉もあるが、細部には拘らず、導入として人物のイメージを大掴みする指導をすべきと考える。筑波大学附属小教諭・石山忠造氏の解説【指導の留意点】では「このような伝記を紙芝居にすると、リンカーンならリンカーンの表面的な行動にポイントがあるように見てしまう。しかし、この作品で道徳の指導をするのだから、表面的な事実の背後（底とでもいい）に目をむけ、しっかりと道徳律をつかむようにして欲しいのである。」と記して道徳教材として位置付けているが、言語活動例が「イ物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。」の低学年では、「正直」「正義」「公正」等の抽象概念は漠然と感じ取ることができれば十分だろう。

三二 中学生〔資料主導型の学習漫画（年表・地図・写真）〕

学習漫画世界の伝記 集英社 昭和59年10月 井出義光 監修／三上修平リソ／片岡徹治漫画

言語活動例が「イ記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。」の中学年では、年表・地図・写真など理解に役立つ資料が豊富な学習漫画は格好の教材である。佐藤公代氏は学習漫画の特質について先行研究を交え、「教育メディアとしての学習漫画は、現在、さまざまな分野のものが発行され、幼児から大人まで多くの人々に愛好されている。漫画は、画像と文字を結合させて読まれる。漫画には『ふきだし表現』や『漫画符号』など、特有の表現が使われている。中澤潤（1993）は、漫画を理解する能力を『漫画読解力』と命名し、『漫画読解力』は青年期初期にかけて発達し、国語の学力との相関が高いことを指摘している。向後千春（1993）は、ある学習内容の情報を伝達する媒体として、学習漫画を利用した場合と文章を利用した場合の比較検討で、『漫画は情報伝達では文章と変わりが無いが、主観的な理解度の評定が高く、時間的には効率の良い方法である』としている。中澤潤・望月千恵子（1995）は、学習漫画や小説文、説明文を用いて比較研究を行い、『漫画読解力は学習漫画教材の理解でのみ差のある傾向があり、漫画を理解するための読解力の存在を示した』としている²⁾。と述べている。紙芝居と同じく視覚情報を絵で呈示するが、コマ割で描写された画面は、現時性（現在の時点を強調）と継起性（物語が引き続く）が複合し動的である。また台詞や擬態語の音声は文字化されており、「聞く」より「見る」に比重がある。更に物語進行に必要な補足は地の文として場

面の要所に絵を損なわぬよう記され、欄外説明や巻末索引も付けられている。

では目次から全体の構成を見てみる（番号は筆者）。「①開拓者の子、②悲しみをのりこえて、③勉強が大好き!!、④法律の力、⑤ニュー・オリンズへ、⑥どれい市場、⑦政治家リンカーン、⑧第十六代大統領、⑨南北戦争、⑩どれい解放の父」の10章立てで誕生から死亡までの生涯が描かれている。児童の生活に近いのは③である。紙芝居にはない②疫病で生母を亡くし新たに継母を迎える、③労働の合間に学校へ通い本に親しむ場面では児童に身近な家庭と学校が描かれ、彼の人柄と適性を見抜く大人が登場している点が注目される。更に④舟運業のトラブルから治安判事と出会い法律を勉強する機会を得、⑤大農場主から農作物を運ぶ仕事を任せられミシシッピ川を下る冒険の場面でも、彼の才能を見出し信頼する大人が登場している。⑥一家の苦しい生活は続き豊かな土地を求めて引越しを繰り返すが、青年に成長した彼は両親から独立した。やがて仕事の途次南部の貿易港で農場の労働力とする黒人奴隷の売買を目の当たりにして衝撃を受けたが、人種差別や人権侵害といった人間の尊厳に関わる重要な課題を認識する機会となった。児童には学校生活における仲間外れやいじめ問題と絡めて指導することもできよう。⑦⑧⑨⑩は政治家となつて国家や社会が直面する課題の解決のため懸命に努力する彼の姿が描かれる。共和党と主義主張は違えど合衆国の自由と平等のため協力を約束する民主党のダグラスが登場する場面では、好敵手との友情や団結について指導するとよいと思う。読み終えた後、州の史実と彼の活動の年を併記した関係地図や写真で「いつ、どこで」を確認しつつ振り返れば、児童の知識は整理され理解は更に深まる。

三三 高学年〔文章主導型の総ルビ付き伝記文庫（読解と思考）〕

講談社 火の鳥伝記文庫 昭和56年11月 松岡洋子 著／依光隆 画

扉書名に「どれい解放の父」と冠せられたリンカーンの生涯を知ることの意義は、「この伝記物語を読むまえに」に「アメリカの一セント銅貨にぎざまれた、リンカーンの顔と『自由』の文字。アメリカだけでなく、これほど世界の人々に、勇気とゆめをあたえた人は、ほかにいないでしょう。そして、『リンカーンは永遠のなぞである。』といわれています。なぜでしょうか。あれ野のまる木小屋に生まれ、わずか一年たらずの教育をうけただけの背のひよる高い、エーブ少年が、大統領とな

り、どれいを自由にするためにたたかった一生は、どんな人でも、能力しだいでかぎりなく成長し、体験によって人格がみがかれていくことを、はつきりしめしてくれました。リンカーンは、アメリカの精神そのものです。人間が生きたための、くめどもつきないはずみです。『人民の、人民による、人民のための政治は、地上からさえさることはない。』南北戦争の戦場、ゲティスバーグでの有名な演説の中のことばは、いつの時代にも、新しくよみがえり、わたしたちを上げまし、人類のゆくてに、永遠の灯をともしてくれるでしょう。』と集約されていることに尽きる。挿絵や写真を「見る」頁もあるが、凡そ総ての漢字(年月時や度量衡を
示す漢数字を除く)には読み仮名が振られ、文章主導で「読む」(自分で
読む)に比重がある(ただ台詞・地の文ともに)。

飯間浩明氏は総ルビの様態について「学習国語辞典(学習辞典)の紙面を見渡し
たとき、本文の書体に続いて気になるのは、ルビ(振り仮名)をどれだけ振ってあ
るかです。ルビには2種類あって、全部の漢字に振る方式を『総ルビ』、必要に応
じてばらばら振る方式を『バラルビ』と言います。近年は、総ルビにする学習辞典
がほとんどです。辞書の説明は、子どもが読めなければ何の意味もないので、総ル
ビにすることは当然とも言えます。私も、人に学習辞典を薦めるときは、『総ルビ
のものを』と言ってきました。ただ、総ルビの中でも、さらに方式が分かれていま
す。1つは、総ルビにはするけれども、できるだけ漢字を使わず、仮名を多くする
もの。もう1つは、総ルビにするからには、ふつう漢字で書くことばは、少々むず
かしくても漢字で書くものです。』と述べている⁽³⁾。「ルビふり」に際しては、対象
年齢や学年別配当を考慮して漢字仮名交じりの比率(漢語の交ぜ書
きは別途回避)を加減する必要があ
る。仮に識字能力の発達した児童を想定して「総ルビにするからには、」の方
針を採るなら、吉野源三郎著
向井調吉絵『この人を見よ①エイブ・リンカーン』(童話屋、平成15
年12月。初出は昭和37年『岩波少年文学全集』26)の方が相応である。

では目次から3章立ての構成を見てみる(節の番号は筆者)。「1びんぼう物語
語①ふぶきの夜、②『べんごちちゃん』、③ひっこし、④あたらしいお母さん、
⑤だいききな学校、⑥本ずきな店番、⑦雨にぬれた本、⑧売られる黒人、⑨政治へ
の一步、⑩郵便局長さん/2黒人のみかた①リンカーン議員どの、②弁護士さ
ん、③政界へ、④どれい問題のあらそい、⑤大統領選挙へ/3人民の、人民によ
る、人民のための政府①リンカーン大統領、②どれい解放、③リンカーンのいの

り、④さいごのたたかい、⑤平和のあけぼの、⑥しばい見物、⑦いまでも生きてい
る」と、より詳細な逸話によって編まれている。例えば、1の②は、馬に乗った弁
護士と出会った幼いエープが回らない舌で「弁護士」と言おうとした語形であるが、
後に彼が弁護士となる伏線。また、④新しく迎えた継母が労働の日々を送っていた
本好きエープの賢さに気付き教育を受ける機会を与え、⑤「クロフォード先生は
親切なよい先生で、エープが文字をきちようめんにかけるようになったのは、この
先生のおかげでした。学校はとてもたのしく、いままでよめなかつた字もみんな
よめるようになったので、エープは、ますます本のすきな子どもになりました。』
は、黎明期の学校教育の真髄。④と⑤は本と人の素敵な出会いを象徴する逸話であ
るが、児童が伝記の歴史的現在において年齢が近い少年エープに感情移入し、「本
が好きで学校が楽しい」ことに共感できるよう読書指導することが大切である。右
から読書と言葉と思考の力を鍛える教材としては総ルビ付き伝記が適切と考える。

四 今後の課題について

国語教材としては、読解力の発達段階に応じた画像と文字の配分、文章の表現性
や語句の難易度の調整が課題である。道徳教材としては、偉人や英雄を事実とは異
なる虚構によって美化しすぎないこと。社会教材としては、児童が想像しにくい海
外の地理や歴史について適切な地図や年表を用い知識を補うこと。更に時事的な世
界情勢に興味を持ち、自己の生き方について考える習慣を身に付ける学習であらう
と思われる。

注

- (1) 立田慶裕編著『読書教育の方法』第1章 発達に応じた読書―読書教育の環境づくり
(学文社、平成27年1月)
- (2) 佐藤公代「学習漫画理解に及ぼす『漫画表現』の役割―説明文章との比較におい
て―」(愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学 第43巻第2号、平成9年2月)
- (3) 『三省堂ワードワイズ・ウェブ』国語辞典入門―小学生向け辞書を選ぶ観点(2)ふりが
な(ルビ)「第14回総ルビがよさそうだけれど…」(平成22年4月1日)